

研究計画概要

助成年度・種別	2016年度 一般研究助成
研究代表者	柴田 守
所 属	長崎総合科学大学
研究テーマ	要保護性のある問題行動の児童生徒を発見・通告するための学校教育機関を基盤にした多機関連携システムに関する研究
研究計画概要	<p>本研究は、事件化されていない学校での問題行動が増加し、自殺等を含めた重大事態が発生している現状に対応するため、問題行動を反復するおそれがあり、現在の環境では処置しきれない（要保護性のある）問題行動の児童生徒を、学校教育機関が中心になって早期に発見・通告し、少年司法につなぐことができるよう、法務少年支援センターや少年サポートセンターなどが学校教育機関と連携を深めて支援するシステムを構築することを目的とするものである。</p> <p>本研究では、まず、学校教員等への意識調査を通じて、学校教育機関が実際に抱える問題状況を整理して、学校教育における対応の限界などを見極め（分析①）、また他方で、法務少年支援センターや少年サポートセンターへの聞き取り調査を実施して、実際にどのような連携の仕方ができるのかを見極め（分析②）、そして、これらの分析を踏まえて、多機関連携システムのモデルを構築する（分析③）。</p> <p>本研究により、少年の重大事態の防止がこれまで以上に進むことが期待される。また、学校教員が問題を抱え込む状況を低下させ、教育に専念できる環境を整備することも目指す。</p>
選考委員からのコメント	<p>要保護性のある問題行動の児童生徒を発見・通告するための多機関連携システムの在り方に焦点づけた実践的研究である。学校を中心に据え、またSSWをも含んだ連携システムの模索は、時宜を得た方向性であり、暗数化している問題行動の発見に貢献することが期待できる。</p>